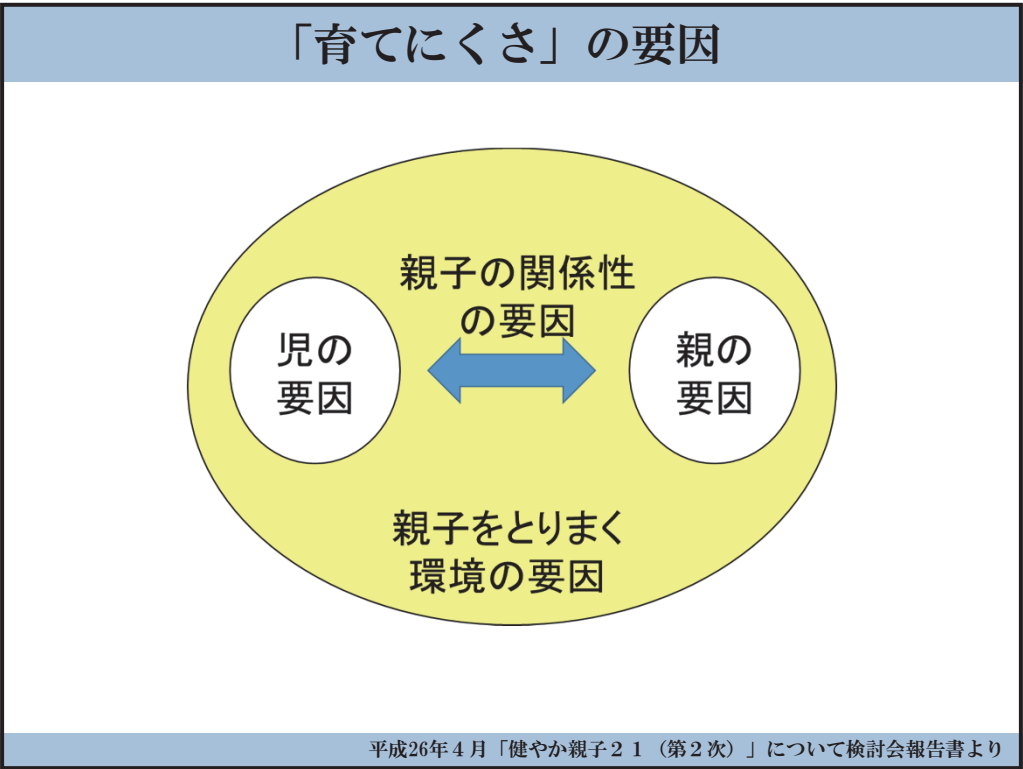
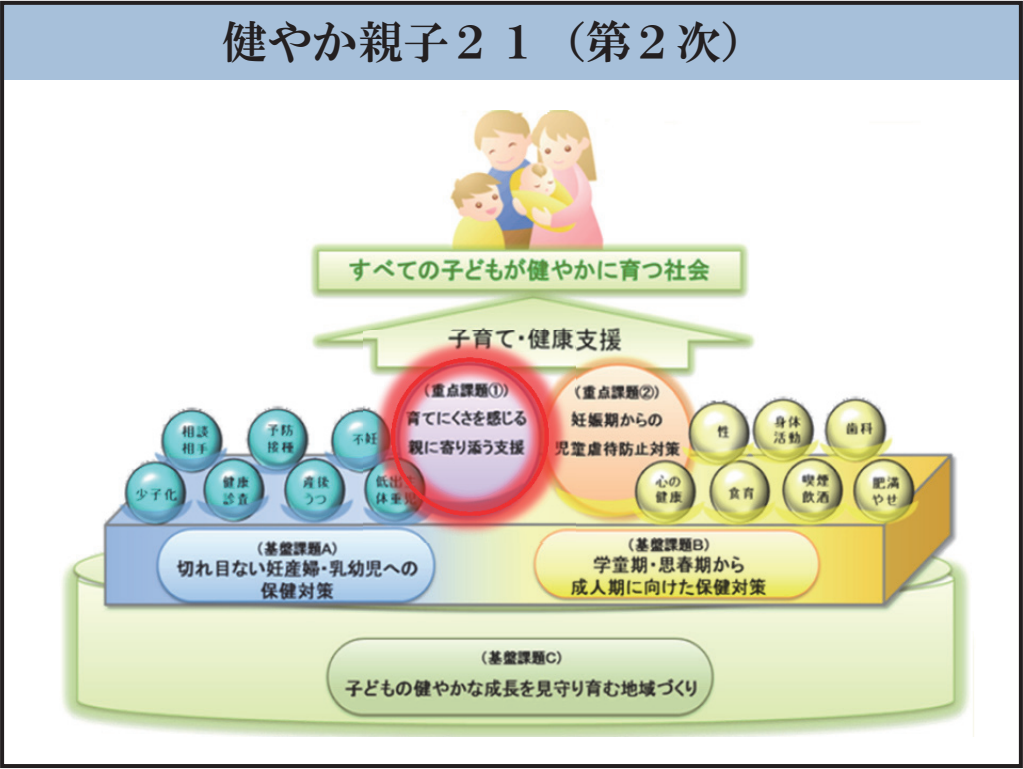


講義③ 「健やか親子21（第2次）」の重点課題における保健指導①
～育てにくさを感じる親に寄り添う支援～



「育てにくさ」の要因の例

1) 子どもに起因するもの

- ・発達の変異
- ・障害・疾病: 発達障害、身体障害、アレルギー性疾患など

2) 親に起因するもの

- ・子育て経験の未熟さ、仕事との両立など
- ・生理的な心身の変化: マタニティブルー、月経前緊張症など
- ・障害・疾病: 知的障害、精神疾患など

3) 親子関係に起因するもの

- ・子どもに無関心、過干渉(依存)など
- ・親子の愛着形成

4) 環境に起因するもの

- ・物的環境: 経済的、交通機関、自然環境など
- ・人的環境: 夫婦関係、嫁姑、支援者、社会の受け入れ状況など
- ・社会的環境: サービス、制度、政策など

重点課題①育てにくさを感じる親に寄り添う支援

親や子どもの多様性を尊重し、それを支える社会の構築

健康水準 の指標

- ・ゆったりとした気分で子どもと過ごす時間がある母親の割合
- ・育てにくさを感じたときに対処できる親の割合(新)

健康行動 の指標

- ・子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合(新)
- ・発達障害を知っている国民の割合(新)

環境整備 の指標

- ・発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援体制がある市区町村の割合(新)
- ・市町村における発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援体制整備への支援をしている県型保健所の割合(新)

標準的なモデル作成のための論点

第Ⅳ章 「健やか親子21(第2次)」の 重点課題における乳幼児健診の保健指導

「提言」p.17

「論点整理」p.55

論点8 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

8.1 社会性の発達過程に関する保健指導

社会性の発達過程に対する保健指導は、乳幼児健診の対象者全員を対象とし、より早期の乳児期から指導することが望ましい。

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

重点課題①-2 健康行動の指標

指標名: 子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合

■ 3・4か月児用

生後半年から1歳になる頃までの多くの子どもは、「親の後追いをする」ことを知っていますか。

■ 1歳6か月用

1歳半から2歳になる頃までの多くの子どもは、「何かに興味を持った時に、指さしで伝えようとする」ことを知っていますか。

■ 3歳児用

3歳から4歳になる頃までの多くの子どもは、「他の子どもから誘われれば遊びに加わろうとする」ことを知っていますか。

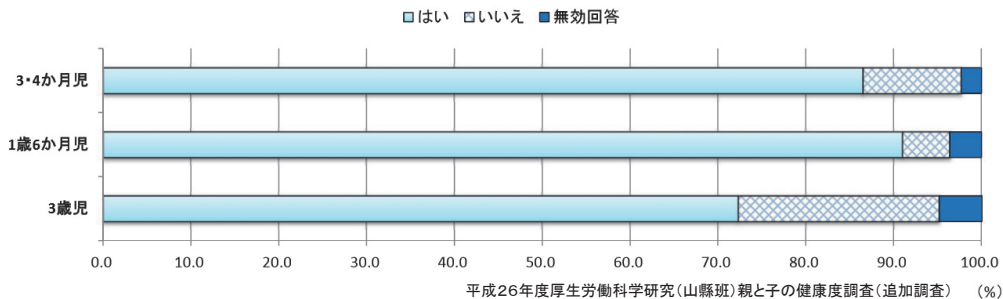
算出方法: 「1. はい」と回答した者の人数/全回答者数 × 100

※各健康診査時点について、上記算出方法にて算出し、3時点の平均値を算出する

第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

重点課題①-2：ベースデータ

少し先の社会性の発達過程に対する質問（各月齢に応じた具体的質問）



■「何かに興味をもった時、指をさして伝えようしますか？」

・「欲しいものを指さして教える」とは異なり、ここでは興味を持ったものを指さするか、興味はもっても共有しようとしないうか



第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

全国調査（市区町村）

社会性の発達過程に関する保健指導の機会の確保

「子どもの少し先の社会性の発達過程について、乳幼児期からその見通しを親に指導する機会を確保していますか。」

(n=1,161)

	市町村		中核市・政令市・特別区		計	
	該当数	比率	該当数	比率	該当数	比率
している	682	62.2%	39	60.0%	721	4.5%
していない	317	28.9%	21	32.3%	338	0.9%
その他	97	8.9%	5	7.7%	102	3.8%

全国市区町村1,741か所都道府県保健所366か所、47都道府県の母子保健主管部（局）等を対象に、平成27年8月に実施。回答数（率）：市区町村1,172件（回答率67.3%）都道府県保健所218件（59.6%）、都道府県39件（83.0%）

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

社会性の発達過程の保健指導をする機会

社会性の発達過程に関する指導の機会を確保「している」と回答し自由記載のあった605件のうち、解析可能であった463件からキーワードを抽出。

1) 指導の機会

指導の機会	件数
乳幼児健診(1回のみ)	81
乳幼児健診(2回以上)	262
相談事業	102
教室 *	81
訪問事業	31
その他 **	4

*教室:親子教室、子育て教室、離乳食教室、虫歯予防教室など

**その他:出生時、健診のお知らせに資料同封

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

社会性の発達過程の保健指導の方法

2) 指導の方法

指導の方法	件数
説明指導	260
集団指導	77
個別指導	63
保健指導	17
講演・講話	13
その他	11

○説明時に何らかの資料を用いるとの回答は184件

例)・母子健康手帳

・自治体独自のパンフレット・リーフレット

・市販されている小冊子

・日本版デンバー発達スクリーニング検査などの発達検査

○資料送付のみとの回答は22件

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

社会性の発達過程の保健指導への提言

1. 乳幼児健診の対象者全員を対象とする

・はじめて子育てをする親・養育者にとって、少し先の発達過程を知ることは、見通しをもったゆとりある子育てにつながる。

・発達過程を知ることで日常生活での“ちょっとした気付き”が促され、親子のふれあいの場での観察の視点が深まる。

→観察ができていない場合、親や親子関係・環境をチェック

- ・子どもの発達の遅れに対する早期発見
- ・親の子育て支援
- ・養育状況や親子関係の確認

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

社会性の発達過程の保健指導への提言

2. より早期の乳児期から指導をおこなう

・親の気付きに対する保健指導の役割

- ①子どもの発達特性の理解を促す
- ②子どもの発達段階に応じたかかわり方の指導
- ③支援の機会を逃さず、子育て支援・発達支援へ



早期乳児期からの指導開始が望ましい。

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

社会性の発達過程の保健指導への提言

3. 遅れに対する親・養育者の受容を見極め、早期に適切な支援へつなぐ

・典型発達と異なる発達過程をたどる子どもに対して親は不安を持ちやすい。あるいは、親・兄弟が典型とは異なる発達過程をたどっているなど気づきがない状況がありうる。



正しい理解を促し、早期に適切な支援へ

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

社会性の発達過程の保健指導への提言

日本版デンバー発達スクリーニング検査の使用例 (聴き取り調査から)

①対象者の現状の
発達段階を親と確認



②現状から望まれる次の
発達段階の共有

人とのやりとりを
少し楽しむ

③次の段階に進むための遊び・かかわり
方の指導



※発達里程碑を用いる場合は、「〇か月に△△が出来ないといけない」と親を焦らせない配慮と工夫を！

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

標準的なモデル作成のための論点

第Ⅳ章 「健やか親子21(第2次)」の 重点課題における乳幼児健診の保健指導

「提言」p.17
「論点整理」p.59

論点8 「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援

8.2 育てにくさを感じる親に対する保健指導の評価

健診場面では、「育てにくさ」を感じている親がためらわずに発信できるように、「育てにくさ」を感じてもいいという「空気」を作ることが必要である。

潜在ニーズを見落とさないためには、どのような支援が必要かという視点から「育てにくさ」の要因を分析し、支援につなげることが求められる。

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

重点課題①-2 健康水準の指標

指標名：育てにくさを感じた時に対処できる親の割合

① あなたは、お子さんに対して、育てにくさを感じていますか。

② (①で「1. いつも感じる」もしくは「2. 時々感じる」と回答した人に対して、)

育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど、何らかの解決する方法を知っていますか。

算出方法：②で「はい」と回答した者の人数/①で「1. いつも感じる」もしくは「2. 時々感じる」と回答した者の人数×100

※各健康診査時点について、上記算出方法にて算出し、3時点の平均値を算出する

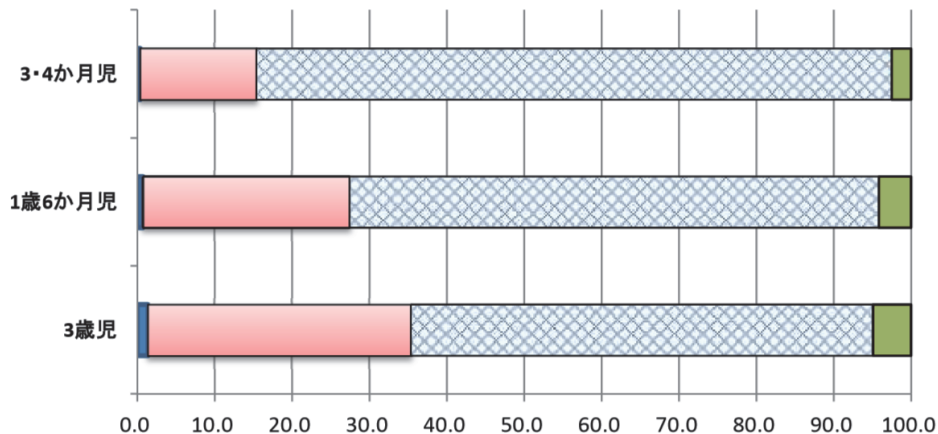
第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

重点課題①-2：ベースデータ

設問①：あなたは、お子さんに対して、育てにくさを感じていますか。

→(1.いつも感じる 2.時々感じる 3.感じない)

■いつも感じる ■時々感じる ■感じない ■無効回答

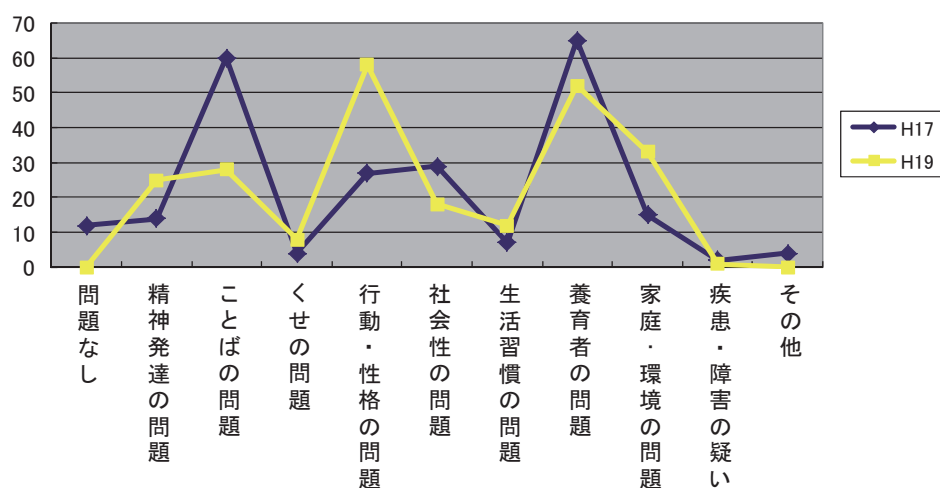


平成26年度厚生労働科学研究(山縣班)親と子の健康度調査(追加調査)

第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

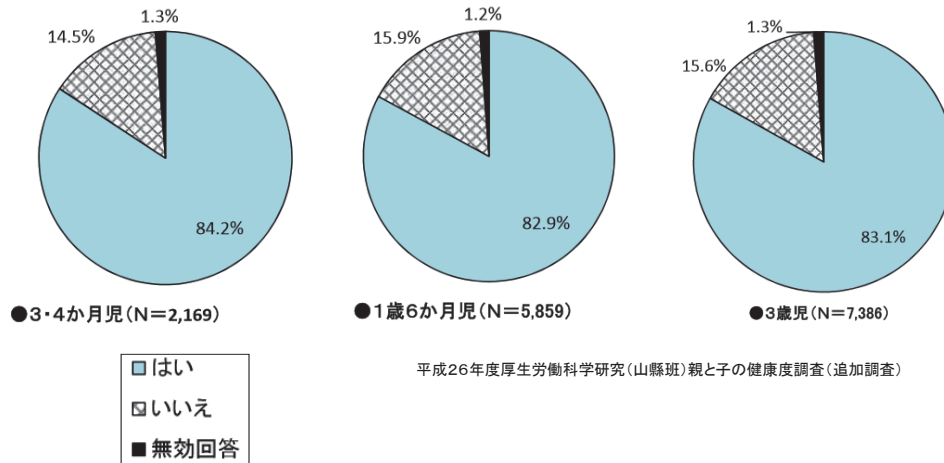
同じ集団での1歳半健診と3歳児健診の結果

1歳6ヶ月(H17)・3歳(H19)



重点課題①-2：ベースデータ

設問②：(①で「1. いつも感じる」もしくは「2. 時々感じる」と回答した人に対して、)育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど、何らかの解決する方法を知っていますか。



第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

全国調査（市区町村）

育てにくさを感じる親に対する保健指導の評価

「育てにくさを感じる親に対する保健指導の評価をしていますか。」

(n=1,165)

	市町村		中核市・政令市・特別区		計	
	該当数	比率	該当数	比率	該当数	比率
評価をしている	289	26.3%	18	27.7%	307	26.4%
評価をしていない	715	65.0%	41	63.1%	756	64.9%
その他	96	8.7%	6	9.2%	102	8.8%

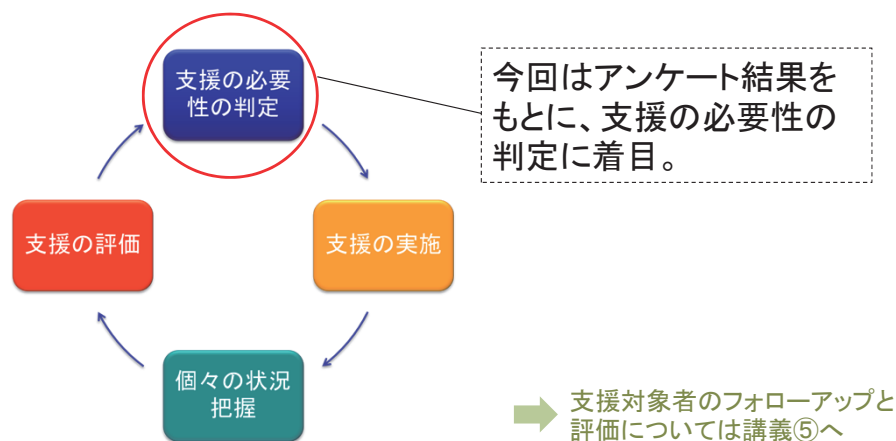
全国市区町村1,741か所都道府県保健所366か所、47都道府県の母子保健主管部(局)等を対象に、平成27年8月に実施。
回答数(率)：市区町村1,172件(回答率67.3%)都道府県保健所218件(59.6%)、都道府県39件(83.0%)

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

育てにくさを感じる親に対する保健指導の評価

「評価している」と回答した307件のうち、自由記載欄に記載のあった254件について記載内容を分析。

回答では、「評価」の解釈は全て
対象者選定の評価の場合、あるいは、アセスメント法



乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

育てにくさを感じる親に対する保健指導の評価

1) 保健指導の対象者を決める場

把握方法	件数
会議*	145
健診後のフォローアップ	30
専門職(ST、臨床心理士)による判定・検討	11

* ケースカンファ、スタッフミーティング、他施設との連携会議など

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

育てにくさを感じる親に対する保健指導の評価

2) 把握の方法

把握方法	件数
問診	31
アンケート	29
アセスメントツール*	7
新生児訪問時と乳幼児健診時のEPDS**の得点差	2

*フェイススケール、親の自信度、M-CHAT、発達障害チェックシート
新版K式発達検査

**エジンバラ産後うつ質問表

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

育てにくさを感じる親に対する保健指導の評価への提言

1. 「育てにくさ」を感じてもいい ～発信しやすい「空気」をつくる～

・乳幼児健診は、育児不安・育児困難感に対する予防的支援や早期介入の場。日常に生じる困り感は、ちょっとした子育ての“コツ”で解消する場合もある。一方で、過剰な負担感や疲労感を伴い、虐待につながるリスクもありうる。

・どんな親・養育者でも、「育てにくい」と言い出すことには抵抗がある。程度が判断できない、自分が悪いのではないかなど。

「育てにくさ」はどんな親・養育者でも感じうる
→共感と解決のために、気持ちに寄り添う

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

育てにくさを感じる親に対する保健指導の評価への提言

2. 潜在ニーズを見落とさない

・それでもなお、「育てにくさ」を感じているというサインを発信できない場合がある。あるいは、親が無関心、発達障害があるなど発信できない状態である場合もある。

・「育てにくさ」の背景にある多面的な要素を抽出・整理し、他職種の視点と併せて分析することで、潜在するニーズを明らかにし、適切な支援につなげることが必要。

隠れたニーズを見つけるための要因分析

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

育てにくさを感じる親に対する保健指導の評価への提言

3. どのような支援が必要か？という視点で要因分析

・「育てにくさ」は親・養育者の感覚的な主訴である。その原因を要因分析し、より効率的かつ適切な支援に結びつけていくことを目的として、要因分析をおこなう。

・「育てにくさ」の背景にある多面的な要素を抽出・整理し、他職種の視点と併せて分析することで、潜在するニーズを明らかにし、適切な支援につなげることが必要。

・要因分析は、問題点のリスト作りではない。
要因を一つにしぼるためでもない。
・支援方法の決定と、支援の評価のため

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

育てにくさの要因分析

事例：8か月男児「夜泣きがひどい」

<問診からの抽出事項>

- ①お座り不安定
- ②身体がやわらかい
- ③ハイハイしない
- ④生活リズムが一定しない
- ⑤母は、専業主婦
午前中は家事をして
子どもの相手をしていない

子どもの要因：発達の遅れの可能性？
親の要因：かかわり方？

子どもの要因：気質？発達の問題？
親の要因：精神状態は？
親子の要因：愛着形成は？
環境の要因：父の協力は？
母の日常の相談相手は？



子どもの発達段階は境界領域。
母のかかわりによって変わるかどうか観察が必要。
まずは、母が子にかかわれる状態になるよう援助。

➡ フォローアップ

乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究

重点課題①-5 環境整備指標（市区町村）

指標名：発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援体制がある市区町村の割合

- ① 育てにくさを感じている親が、利用できる社会資源（教室に参加できない場合は個別訪問などにつなげる）がある。
- ② 発達支援に関して保健センターや保育所等の関係機関が個別事例の情報交換する会議が定期的に行われている。
- ③ 育てにくさに寄り添う支援を実施するためのマニュアル^(※)がある。

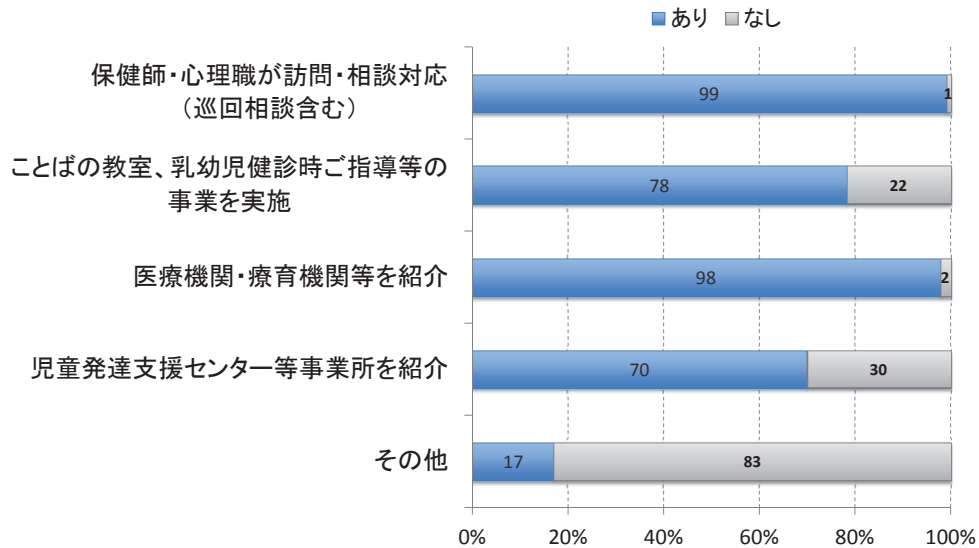
(※) マニュアルとは、次の点について記載しているものとする。(1) 育てにくさを発見できる問診などの仕組みや工夫について、(2) a)子どもの問題、b)親の問題、c)親子の問題、d)環境の問題の各々の「育てにくさ」の側面からの記載

- ④ 医療、保健、福祉、教育が連携して支援状況を評価している。

算出方法：①かつ②～④のいずれかに「1. はい」と回答した市区町村数/全市区町村数×100

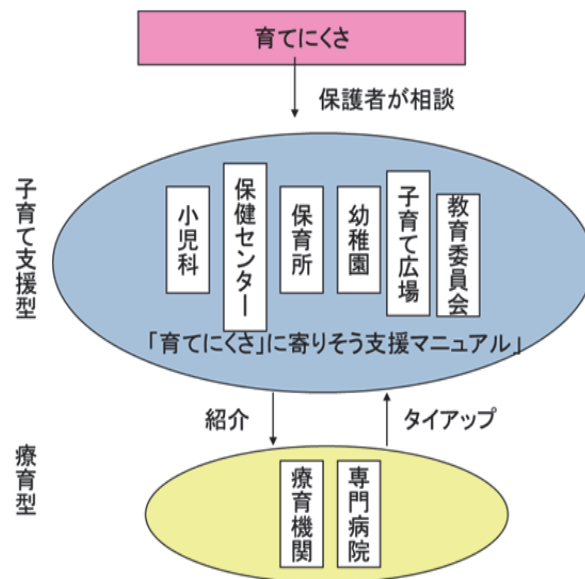
第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

発達障害が疑われた場合の市区町村の対処



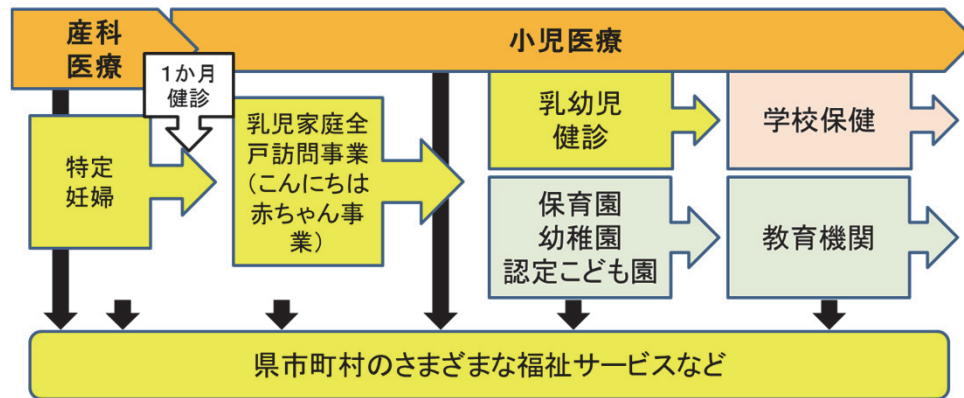
平成25年度母子保健事業の実施状況（厚生労働省母子保健課調べ）

「育てにくさ」の相談場所



第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

妊娠期から乳幼児・学童期へとつながる支援



第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

重点課題①-5 環境整備指標（県型保健所）

指標名：市町村における発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援体制整備への支援をしている県型保健所の割合

- ① 広域な立場で、専門医療機関や療育機関と市町村間の情報共有をするためのネットワークをつくっている。
- ② 市町村の早期支援体制の評価と見直しに助言や技術的支援を行っている。
- ③ 市町村向けの研修において、育てにくさに寄り添う支援に関する内容が含まれている。

算出方法：①～③のすべてに「1. はい」と回答した県型保健所の数/全県型保健所数×100

第10回「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会

発達障害児・者支援体制のイメージ

